

リーディングDXスクール事【実践事例修正】

吉川市立旭小学校(埼玉県)

【取組内容①】 探究的な学びを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の記録を残すデジタル・ポートフォリオの実践

ねらい 総合的な学習の時間で実施した校外学習における写真、動画や取材内容等をGoogleスライドに蓄積し、いつでもそのデータを利活用できるようにすることで、様々な教科等の「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

授業実践例(6年(総合的な学習の時間):鎌倉・横浜にイッテQ)

- 1 当事者意識を高め構築する課題づくり
- 2 多様な価値観を持つ他者との学び
- 3 今の自分と未来をつなげる学び

1 当事者意識を高め構築する課題づくり

様々な方法で収集した情報や、他者の様々な価値観をもとに吉川市にとってのWell-beingを探るための自らの課題を設定する。



① 吉川市教育委員会によるデジタルシティズンシップ授業やPBL授業を全年齢オンライン等で実施。その授業を通し、当事者意識を持って設定した課題が探究的な学びの大きな原動力になることを学んだ。

② 街づくりについて本やインターネット(一人1台端末を活用)で情報収集する。自らの関心や疑問に関して集めた情報を整理・分析し、課題づくりに活かした。

③ 吉川市の職員から吉川市の土地の利用や歴史、行事や産業、街づくりの経緯とこれからの構想についてプレゼンを聞き、実生活と結びつけることで、当事者意識を高めた。

④ 吉川市と比較することで、当事者意識を持って鎌倉市や横浜市の見学や取材を行うことができた。吉川市の特徴について認識を深め、課題の設定につなげることができた。

2 多様な価値観を持つ他者との学び

個々の課題やデジタルポートフォリオを共有し、課題毎にグループを作り、テーマを設定する。



① 現地取材(修学旅行)で感じた感動や吉川市との違い、街の発展のためのアイデアについてGoogleフォームを活用して報告書を作成した。作成したスライドはデジタル・ポートフォリオとして蓄積し、今後の発表会の資料作成や国語や社会科の学習にも活用する。
他学年も同様に、作成した作品は学びの記録として蓄積して活用を図ることで、ICTの善き使い手の育成を図る。

② 個々の課題については、多様な価値観や考えをもつクラス全員の関心や疑問をICT(ジャムボード・ムーブノート)を活用して共有する。
個々の課題や解決の方法を仲間と共に再確認しながらテーマを設定する。

3 今の自分と未来をつなげる学び

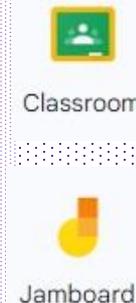
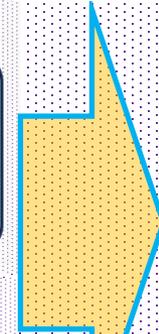
今後、Googleスライドを活用して吉川市の街づくりについての提案を作成し、保護者や地域の方々、吉川市役所職員に向けて情報発信を実施する。【実践⑤】

個別最適な学び

Googleスライドに自分が得た情報を蓄積し、自分のデータをいつでも引き出せるようにすることで、自己調整をしながら学習を進めることができるようにした。

協働的な学び

Jamboardを活用し、グループ活動することで友達の意見を瞬時に把握し、自分の学びに活かすことができた。また、Classroomで情報共有をし、学びを広げた。



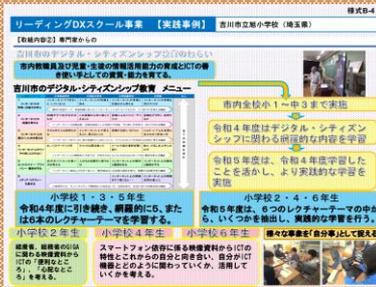
リーディングDXスクール事【実践事例修正】

吉川市立旭小学校(埼玉県)

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

ねらい

市のデジタル・シティズンシップ教育に係る6つの項目を特任教育支援員が全小・中学校、全学年対象で授業を実施することで、市内児童・生徒全員にICTに係る知識や理解を深める。また、教職員研修も全校悉皆で実施し、教職員からの継続的な指導をねらいとしている。



多様性を理解した関係づくりができる

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



学校外の人・モノ・コトと積極的に繋がることができる

成果

全校共通して同様の指導を実施しているため、教職員と児童・生徒の間に共通認識ができていていると感じている。また、ICTの活用について教職員が指導する際に、ただ、禁止するのではなく、「ICTを効果的に活用する」視点が身に付いてきている。

課題

専門家からの授業がその授業時間のみの単発授業のような形になってしまうと、児童・生徒への継続した指導が実施できなくなってしまう。今後は、学校職員がデジタル・シティズンシップについて、さらに研修を重ね、日常的に繰り返し指導ができるようにしていかなければならない。そのためには研修や授業終了後に校内職員で共通した指導を実施できるよう体制づくりを行う必要がある。

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

吉川市立旭小学校（埼玉県）

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

吉川市のデジタル・シティズンシップ教育のねらい

市内教職員及び児童・生徒の情報活用能力の育成とICTの善き使い手としての資質・能力を育てる。



吉川市のデジタル・シティズンシップ教育 メニュー

レクチャーテーマ	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	大人
1 インターネットの 特性・仕組みを学ぶ	インターネットでできること、していること 最初の必修テーマ、発達段階に応じたインターネットとはどういうものか、どう使うかを考える講座	インターネットの特徴を知る	インターネットの特徴と仕組みから考える	インターネットの特徴を活かすには	↑ 全ての 内容を 含む ↓
2 インターネットの 投稿を考える	投稿がすぐ広がるのはなぜ インターネットの投稿拡散、投稿を起因とした効用や不利益、その使い方を考え、自分で決める講座	この投稿から次に起こりえること	投稿によるメリット・デメリット	投稿をどう作り、活用するか	
3 インターネット上の 悪口・いじめを考える	そのときどんな気持ちかな インターネットを介したいじめの投稿やいじめについて、どうしたらいいかを自ら主体的に考える講座	インターネット上で見えなこと、見えないこと	投稿する前に ReThink	フィルターバブルの自覚と炎上とのつき合い方	
4 インターネット上のウソ やだましにのらない	ID、パスワードって何 インターネット上の情報をどう扱うか、だまされないようにするために知っておく事等を考える講座	クリックは要注意って	メールや添付資料を賢く扱う	釣り、だましを上手にかわす	
5 ネットのマナー・フライング パスン・権利を守る	自分のパソコンの使い方を考える インターネット使用上の守るべきこと、著作権をはじめ他者の権利を考え、尊重する姿勢を学ぶ講座	人のものを勝手に使うのは	インターネット上の権利と義務を知る	インターネット上の権利と義務を守る	
6 メディア・リテラシー を高める	小高学年から。ネットやメディア情報などの向き合い方、活用を考え、生活に活かす姿勢を学ぶ講座		インターネット上の情報をすぐ信じるって...	インターネット上の情報活用達人に	

市内全校小1～中3まで実施

令和4年度はデジタル・シティズンシップに関わる網羅的な内容を学習

令和5年度は、令和4年度学習したことを活かし、より実践的な学習を実施

小学校1・3・5年生
令和4年度に引き続き、網羅的に5、または6本のレクチャーテーマを学習する。

小学校2・4・6年生
令和5年度は、6つのレクチャーテーマの中から、いくつかを抽出し、実践的な学習を行う。

小学校2年生

内閣府、総務省等国のGIGAに関わるPR動画資料からICTの「便利なところ」、「心配なところ」を考える。

小学校4年生

スマートフォン依存に係る動画資料からICTの特性や自分がICT機器とどのように関わっているか、活用していくかを自分で、他者と意見を共有し合いながら考え、自己決定する機会をつくる。

小学校6年生

様々な事象を「自分事」として捉える



【取組内容③】 端末持ち帰りの習慣化と情報活用能力に関わる技能の育成

ねらい

児童が一人一台端末を日常的に活用する場面的を意図的に設定することで、端末を活用するために必要な基礎的な知識や技能を身に付け、端末の文具化を目指す。

AIドリル
×
タイピングソフト

リーディングDXスクール事【実践事例】 吉川市立旭小学校(埼玉県)
【取組内容③】 端末持ち帰りの習慣化と情報活用能力に関わる技能の育成

端末をいつでも文房具のように使用するために → まずは持ち帰る習慣をつくる → AIドリル × タイピングソフト

端末持ち帰り率(週2以上～毎日)は県内平均値より63ポイント上がった
今後は...
ICTを使うための基礎的な知識やスキルを習得し、情報活用能力を向上させるための策を講じ、今後は、宿題等の進め方に着目し、自己で学びを進める方法を研究していく。

タブレットの文具化につなげるための端末の持ち帰り

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



学校外の人・もの・コトと積極的に繋がることできる

自分を肯定し主体的に行動できる

成果

一人一台端末の文具化を推進するためには、まず児童・生徒が日常的に端末を扱い、端末を活用するための基礎的な知識や技能が必要となってくる。旭小では、宿題として「AIドリル」を日常的に扱うことで、端末の持ち帰りの常態化と端末活用に必要な基礎的な知識や技能が身に付いた。

課題

今後は、自分で学びを進めることが課題となる。そのため、現在の「AIドリル」のみならず、端末を活用した自主学習の推進等、自ら端末を活用する習慣を身に付ける必要がある。「必要な場面」で「効果的に活用」することができるよう、校内研修等を通して、児童への指導方法を研究していく必要がある。

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

吉川市立旭小学校（埼玉県）

【取組内容③】 端末持ち帰りの習慣化と情報活用能力に関わる技能の育成

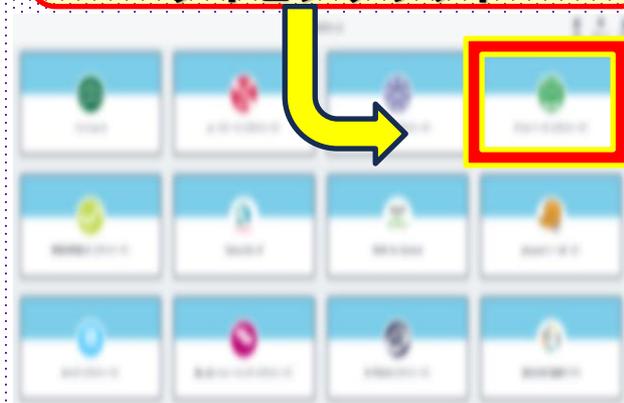
端末をいつでも文房具の
ように使用するために



まずは持ち帰る
習慣をつくる



AIドリル
×
タイピングソフト



端末持ち帰り率（週2以上～毎日）は
県内平均値より63ポイント上回った

今後は...

ICTを使うための基礎的な知識やスキルを習得し、情報活用能力を向上させるための素地を養う。今後は、宿題等の進め方に着目し、自己で学びを進める方策を研究していく。

必要なときにい
つでも使える環
境と習慣の構築



【取組内容④】 Google共有ドライブを活用した校内研修の推進

ねらい

児童が普段使用しているコンテンツを活用して校内研修を進めることで、ICT活用における教職員の指導力向上を図りながら、校務の効率化を推進していくことをねらいとする。

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力

働き方改革

【取組内容④】 Google共有ドライブを活用した校内研修の推進

ねらい 児童が使用するコンテンツを教職員も活用することで、働き方改革と共に教職員の指導力向上を図る。

classroomで校内研修課題を配布

Google classroomで、データ等の共有を実施

校内研修を離れた時間内で効率的に進めるための環境構築

情報共有は児童と同じGoogleコンテンツを使用することで教師の指導に活かす

校内研修において、児童が普段使っているコンテンツを活用することで、教職員のICT研修の興味も持たせる。学校においては、2つのねらいをもって研修を進めることで働き方改革につなげる。

Jamboardで記録し、蓄積

教師の指導力向上



成果

児童が使用するコンテンツを教員が活用することで、教員のICT活用力を高めながら、指導に活かすことができた。校内研修の内容もデジタルで保存をすることで、次年度の研修の推進にもつなげることができる。

課題

校内研修における情報発信については、研修主任や教務主任が担うことが多いため、校内全教職員のスキル向上に課題が見られる。今後は吉川市のICT支援員も活用しながら、教師の情報活用能力を高め、児童の指導に活かしていく必要がある。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立旭小学校（埼玉県）

【取組内容④】 Google共有ドライブを活用した校内研修の推進

ねらい 児童が利用するコンテンツを教職員も活用することで、働き方改革と共に教師の指導力の向上を図る。

classroomで校内研修課題を配布



Google classroomで、データ等の共有を実施



校内研修を限られた時間内で効率的に進めるための環境構築



スプレッドシートやスライドなど共同編集するコンテンツを選択する。

校内研修において、児童が普段使っているコンテンツを活用することで、教職員のICT研修の意味合いも持たせる。学校においては、2つのねらいをもって研修を進めることで働き方改革につなげる。

2班] 視点2 三角形がどの分類になるのか見通しや実感をもたせるための手立てが効果的だったか。

「辺の長さ」というワードを、児童から出るように、工夫があればよかった。

仲間わけされていること、情報の共通点を探ることが分かっていない

三角形だけに色がかいているのがわかりやすかった

正方形や長方形の図形を想起させたところがあった。それが正三角形にもつなげていた。

自力解決では、コンパスで調べて、プリントに印をつけるだけでよかったからしれない。

コンパスでの調べが自分から出てきた。また、図の長さを測ることで、辺の長さを調べることができた。

図が解決の前にコンパスで測ることで、図の長さを測ることができた。また、図の長さを測ることで、図の長さを調べることができた。

Jamboard

情報共有は児童と同じGoogleコンテンツを使用することで教師の指導に活かす

Jamboardで記録し、蓄積

リーディングDXスクール事【実践事例修正】

吉川市立旭小学校(埼玉県)

【取組内容⑤】 市政策室・市教育委員会と連動した、実践内容の地域内外への発信・普及

ねらい

児童が自分の意見や考えをICTを活用して外部に発信することで、自己肯定感を高め、主体的に学ぶ姿勢を養う。また、公的機関や外部の人材と交流することで地域を意識し、地域に根ざした学校づくりの意識も高めていく。

吉川市とつながる



次の学びにつながる

多様性を理解した関係づくりができる

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



学校外の人・モノ・コトと積極的に繋がることできる

自分を肯定し主体的に行動できる

成果

児童は市の職員とのやりとりや市長への提案を通して自分たちの進めた探究的な学びについて自信を持ち、自己肯定感を高めることができた。また、市の行政、学校外部とつながることで来年度の小学校の教育活動の幅を広げることができた。

課題

発信の方法として、「発表」という形をとったが、発表以外の発信については、児童自身が発信することができていない。今後はGoogleサイト等のコンテンツを活用し、自分で外部に情報を発信していく経験をさせ、児童の情報活用能力をさらに向上させることを目指す。

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

吉川市立旭小学校（埼玉県）

【取組内容⑤】 市政策室・市教育委員会と連動した、実践内容の地域内外への発信・普及

ねらい 市内の行政及び市教育委員会との交流を密にし、自分たちの考えや意見を外部に発信することで今後の児童・生徒の学びにおける「当事者意識」を醸成する。



https://eleminist.com/article/1967...

ゴミが少ない吉川になるために

タバコの吸い殻の投票箱を作る！
イギリス発のアイデア対策
約400万本もの吸い殻を回収できたらしい！

Apple Android

使った参考サイト

<https://pictogram2.com/>
<https://www.city.koshigaya.saitama.jp/>
吉川ねぎ夫 - 吉川市公式ホームページ
<https://www.city.yoshikawa.saitama.jp/>

BtoQ パーベキューパーク

Google スライド




ドライブ

異学年に発表



異学年に向けた発表を振り返り、市への提案に向け、修正。

市の政策室に提案



街を作ってワイワイ！

鎌倉市にある小町通りを吉川市バージョンの「ナマズ通り」を作ればいいと思います！
そうすれば街も賑わい、人口も増えると思います！



デジタル・シティズンシップの視点も忘れずに…



市長・教育長が直々にコメント

今後の展開 市の関係機関から、市内の公共施設や地元の会社等とのつながりをねらい、交流・発信活動を継続していく。
また、吉川市のYouTubeチャンネルや、吉川市教育委員会のICT活用サイト等を活用して実践を紹介し、広めていく。